添付資料２

ホームページ公開・研究対象者情報通知用（筑波大学）

htt s://ne htsukuba.wixsite.com/ne hrolo -tsukuba/r n

研究課題名：急速進行性糸球体腎炎の全国症例疫学調査（2016-2019 年度）

急速進行性糸球体腎炎 （RPGN）について

「急速進行性糸球体腎炎」は急速に腎臓の働きが失われ、個人差はありますが、しばしば数ヶ月以内に腎不全となり透析療法が必要となることの多い最も重篤な糸球体腎炎であるといわれています。また、しばしば腎臓だけでなく、肺やその他全身臓器にも炎症が及び、肺出血や肺炎など生命に危険を及ぼす障害を併発してくることがいわれています。この病気は、細い血管が鞠状にかたまった腎臓の糸球体といわれる場所の血管壁に炎症が起こることにより発症します。

その結果、尿を産生する元となる腎臓の糸球体に強い炎症がおこり、糸球体そのものが壊れ、機能が無くなり、体に貯まった老廃物や水分の排泄が低下していきます。ただし、この病気は比較的まれな病気であり、この病気により日本全国でわずか年間 1,500 人前後の方が病院を受診されているにすぎません。従って、国内の各施設単独では十分な症例の調査が進まないため、この病気の予後や治療法に関してのまとまった統計はとりにくい状況があります。

[redacted]

筑波大学腎臓内科を事務局として、2022年度内に全国の各腎疾患診療機関宛てにアンケートの送付と回収を行い、およそ2年程度で（2025年3月31日予定）研究を完了する予定です。

[redacted]

次調査の結果を踏まえて2次調査を行う2段階で行っています。具体的には、1次調査では、ある一定期間内（今回は2016年～2019年度となります。）の間で新規に発症した急速進行性糸球体腎炎の数を全国の各腎疾患診療機関に確認します（すでに確認作業を終えています）。2次調査では、1次調査の結果をもとに個々の原因や治療内容、経過などに関する情報をアンケート形式で各腎疾患診療機関から回答頂いております。

⑤アンケートの検討項目内容

発症時の年齢、性別、原因疾患、肺病変の有無、診断時の腎機能（血清クレアチニン値）、ヘモグロビン濃度、血清CRP値、血清MPO-ANCA値、PR3-ANCA値、抗GBM抗体値、初期あるいは全経過中の治療の内容（副腎皮質ステロイド、免疫抑制薬、生物学的製剤）、全経過中のアフェレシス療法（有無、種類）、透析の有無（離脱、維持透析）、再発/再燃の有無、転帰、死亡の場合には死因、最終血清クレアチニン値。

⑥調査に関するプライバシーの保護

職名：筑波大学附属病院腎臓内科 教授
氏名：山縣 邦弘

Tel：029-853-3613（腎臓内科外来：9－17 時）

職名：広島大学病院腎臓内科　教授
氏名：正木　崇生
連絡先：〒734-8551　広島県広島市南区霞 1-2-3
Tel：082-257-1506

以上のことをご理解いただき、今後ともこの疫学調査にご協力いただきたく、よろし